

# 法政大学デザイン工学研究科学位取得のためのガイドライン

## 1. 本研究科で授与する学位と専攻の関係

専攻	修士	博士
建築学	修士（工学, 学術または建築学）	博士（工学, 学術または建築学）
都市環境デザイン工学	修士（工学）	博士（工学）
システムデザイン	修士（工学）	博士（工学または学術）

## 2. 修士課程学位授与の要件

修士の学位は、本学大学院の修士課程に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。ただし、修士論文については、各専攻が認めた場合に限り当該専攻分野の特定の課題に関する研究成果をもって、代えることができる。

修士論文は、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を示すものでなければならない。

学位申請論文は、以下に示すデザイン工学研究科学位論文審査基準に従って審査される。

- ・修士論文・修士設計としての水準を満たしていること。
- ・総合デザイン力を身につけた高度な専門職業人としての資質を有することを証するものであること。
- ・修士課程ディプロマポリシーに基づき、次の10項目にわたる素養や能力を有することを証するものであること。

DP1. デザイン目標の発見とそのコンセプトを設定する能力-企画・立案能力-

DP2. 高い個別専門技術を組み合わせデザインする能力-デザイン能力-

DP3. 問題を幅広い観点から捉え、解を自主的・継続的に見いだす能力-問題解決能力-

DP4. デザインの社会的責任を理解し、不測の事態にも誠実に対処する姿勢-職業的倫理-

DP5. 人類の遺産である歴史と文化を理解する素養-歴史と文化への理解-

DP6. 地球環境の視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる資質-地球環境への理解-

DP7. 研究・企画内容を論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力-表現・伝達能力-

DP8. 工学における専門分野を統合的に理解し、応用的課題に主体的に取り組む能力  
—実践・統合能力—

DP9. 学術における新たな知見や理論を自立して探究・発展させ、知的発信・貢献を行う能力  
—学術的深化と発信力—

DP10. 建築学における専門分野を統合的に理解し、応用的課題に主体的に取り組む能力  
—実践・統合能力—

学位申請者は、以下の項目について、主査と副査による査読または予備審査、および公開発表審査会における学位申請論文に関する試問を受ける。

- 1) 専門分野の現状と問題点を正しく認識し、その解決に客観的な視点から取り組んでいる。
- 2) 専門分野に関する広範な知識を有し、高度な専門技術に習熟している。
- 3) 学位申請論文を含む提出物は、正確な日本語または英語により記述されている。
- 4) 母国語以外に、専門分野に必要な一つ以上の外国語を理解するに十分な能力を持つ。

以上に関する評価結果に基づき、専攻会議は修士の学位を授与することの可否を議決する。

### 3. 博士、学位授与の要件

#### ・課程博士

博士後期課程に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者

#### ・論文博士

論文を提出し、その審査と試験に合格し、かつ、前号と同等以上の学識があると認められる者

#### ・博士論文

博士論文は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すものでなければならない。

学位申請論文は、以下に示すデザイン工学研究科学位論文審査基準に従い審査される。

- ・博士論文としての水準を満たしていること。
- ・より高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者（専門特化型人材）としての資質を有することを証するものであること。
- ・博士課程ディプロマポリシーに基づき、次の10項目にわたる素養や能力を有することを証するものであること。

DP1. デザイン目標の発見とそのコンセプトを設定する能力-企画・立案能力-

DP2. 高い個別専門技術を組み合わせデザインする能力-デザイン能力-

DP3. 問題を幅広い観点から捉え、解を自主的・継続的に見いだす能力-問題解決能力-

DP4. デザインの社会的責任を理解し、不測の事態にも誠実に対処する姿勢-職業的倫理-

DP5. 人類の遺産である歴史と文化を理解する素養-歴史と文化への理解-

DP6. 地球環境の視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる資質-地球環境への理解-

DP7. 研究・企画内容を論理的に記述し、口頭で発表し討議する能力-表現・伝達能力-

DP8. 工学における専門分野を統合的に理解し、応用的課題に主体的に取り組む能力

—実践・統合能力—

DP9. 学術における新たな知見や理論を自立して探究・発展させ、知的発信・貢献を行う能力

—学術的深化と発信力—

DP10. 建築学における専門分野を統合的に理解し、応用的課題に主体的に取り組む能力  
—実践・統合能力—

学位申請論文は以下の要件を満足している必要がある。ただし、以下の要件に該当しない特別な事例については、審査委員会で審議し、受理の可否を議決する。

受理が決定した場合には、学位申請者は、主査と2人以上の副査（注）からなる審査小委員会において、学問的な内容に関する審査と並んで、以下の諸点に関する試験または試問を受ける。

- 1) 論文の内容が、学術論文誌に第一著者として1編以上（課程博士）あるいは2編以上（論文博士）、原著論文として掲載されている、または、掲載が決定されている必要がある。ここで、学術論文誌とは国内外の学会・研究機関・学術誌編集組織により定期的に刊行され、掲載に査読を要する論文誌で、各専攻がその権威を認めたものである。また、原著論文は学術論文誌と同等な水準を有する単著による学術図書に代えることができる。なお、専攻並びに専門分野によっては、その他の学術論文、または追加的な資料の提出を求める場合がある。
- 2) 学位申請論文を含む提出物の記述言語は、日本語または英語とする。
- 3) 学位申請論文は、審査に値する形式と内容水準を備えていなければならない。
- 4) 母国語以外に、専門分野に必要な一つ以上の外国語による執筆、発表、討議を行うに十分な能力を有している必要がある。
- 5) 専門分野における学識に優れ、社会の指導的な役割を果たす人材として豊かな人間性を備えている。
- 6) 審査の過程で公聴会を実施し、公正な外部評価を受ける。

以上の審査結果から、審査小委員会はその結果を審査委員会に報告し、審査委員会は博士の学位を授与することの可否を議決する。

#### 4. 研究指導體制

##### (1) 修士課程

修士課程では、以下の研究指導體制にしたがって研究指導を行うものとする。

- 1) 担当指導教員の基で研究活動を行うと共に、所定の単位とコースワークを履修し、修士論文・修士設計において取り組むために必要な知識・技術を修得する。
- 2) 修士論文・修士設計は、担当指導教員である主査に加え、選定された1名以上の副査で論文内容及び設計内容を確認するとともに、原則として各専攻教員全員で審査を行う。

##### (2) 博士課程

博士課程では、以下の研究指導體制にしたがって研究指導を行うものとする。

- 1) 担当教員指導教員の基で研究活動を行うと共に、所定の講義科目とプロジェクト科目の履修を通して博士論文において取り組むために必要な知識・技術を修得する。
- 2) 博士論文の審査においては、論文審査委員会および論文審査小委員会の審査を受ける。

## 5. 指導内容及びスケジュール

### (1) 修士課程

修士課程では、以下の指導内容及びスケジュールに従い研究指導を行うものとする。

年次	期間		指導内容	対象	担当
1年次	4月		履修登録方法, 大学院授業科目, 成績評価, 助成金, 奨励金についてのガイダンス	学生全員	大学院事務, 各専攻主任
			履修指導 (登録する科目の選択に関する指導)	各専攻教員研究室学生	指導教員
	4月	翌年3月	研究計画に対する指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
			学会等への論文投稿・発表の推奨, 投稿指導, 執筆指導など	各専攻教員研究室学生	指導教員
			実験・解析・制作指導, フィールドワークなどでの指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
2年次	4月		履修指導 (登録する科目の選択に関する指導)	各専攻教員研究室学生	指導教員
	4月	12月	研究計画に対する指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
			学会等への論文投稿・発表の推奨, 投稿指導, 執筆指導など	各専攻教員研究室学生	指導教員
			実験・解析・制作指導, フィールドワークなどでの指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
	4月	12月	修士論文・修士設計に対する指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
	2月		修士論文・修士設計を提出	学生全員	
	2月		修士研究審査会 (審査会にて最終試験として口頭諮問を受ける)	学生全員	教員全員
	2月		学位授与の可否の判定	学生全員	教授会
	3月		学位授与	対象学生	大学院

(2) 博士課程

博士課程では、以下の指導内容及びスケジュールに従い研究指導を行うものとする。

年次	期間		指導内容	対象	担当
1年次	4月		履修登録方法、大学院授業科目、成績評価、助成金、奨励金についてのガイダンス	学生全員	大学院事務、各専攻主任
	4月	翌年3月	研究課題・研究計画に対する指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
			所定の講義科目とプロジェクト科目の履修を	当該学生	専攻教員
			ゼミなどで、修士学生、卒論生などに、実験・解析・制作の研究補助を行うとともに、研究指導の補助を行う	各専攻教員研究室修士・学部学生	指導教員・当該学生
			学会等への論文投稿・発表の推奨、投稿指導、執筆指導など	各専攻教員研究室学生	指導教員
			実験・解析・制作指導、フィールドワークなどでの指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
12月	2月	卒業論文・卒業設計に対する執筆・制作指導補助 修士論文・修士設計に対する執筆・制作指導補助	各専攻教員研究室修士・学部学生	指導教員・当該学生	
2年次	4月	翌年3月	研究課題・研究計画に対する指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
			ゼミなどで、修士学生、卒論生などに、実験・解析・制作の研究補助を行うとともに、研究指導の補助を行う	各専攻教員研究室修士・学部学生	指導教員・当該学生
			学会等への論文投稿・発表の推奨、投稿指導、執筆指導など	各専攻教員研究室学生	指導教員
			実験・解析・制作指導、フィールドワークなどでの指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
	12月	2月	卒業論文・卒業設計に対する執筆・制作指導補助 修士論文・修士設計に対する執筆・制作指導補助	各専攻教員研究室修士・学部学生	指導教員・当該学生
3年次	4月	9月	所定の講義科目とプロジェクト科目の履修を	当該学生	専攻教員
			ゼミなどで、修士学生、卒論生などに、実験・解析・制作の研究補助を行うとともに、研究指導の補助を行う	各専攻教員研究室修士・学部学生	指導教員・当該学生
			学会等への論文投稿・発表の推奨、投稿指導、執筆指導など	各専攻教員研究室学生	指導教員
			実験・解析・制作指導、フィールドワークなどでの指導	各専攻教員研究室学生	指導教員
	9月		博士論文提出	当該学生	研究科
	9月	2月	専任教員で構成される審査委員会への審査論文の提出	当該学生	学位審査委員会
			審査委員会において審査論文が受理された場合、論文審査ならびに試験および学識の確認を行うための審査小委員会を設置		
			論文審査、学識試験、口頭試問	当該学生	学位審査小委員会
2月		学位審査小委員の審査結果に基づき、学位授与の可否を判定	当該学生	学位審査委員会	
3月		学位授与	当該学生	大学院	